

2019年
第4回



令和元年度
『かぬましんきんビジネススクール』実施報告

若手経営者ならびに後継者等のみなさまにご参加いただき「令和元年度 かぬましんきんビジネススクール」第4回目の勉強会が、令和元年11月13日（水）に開催されました。

開講挨拶

開講に先立ち、大貫常務理事より2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（“SDGs”：Sustainable Development Goals）について紹介がありました。これは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを理念としています。

近年、日本国内の事業所においても、SDGsへの取組みが浸透し始めている背景から、受講生のみなさまも、今後作成する事業計画書などに盛り込み、積極的に取り組んでいただきたいという内容で挨拶がありました。



勉強会

第4回勉強会は、第1回に続き、「株式会社タナベ経営 本部長代理 田中一司様」を講師に招き、前半は「ステル・アラタメル・アタラシクスル」と題して、業務プロセスの改善等についてご講義いただきました。後半は、ケーススタディをもとに受講生同士による「グループワーク」を実施し、活発な意見交換が実施されました。講義内容の要点は以下のとおりです。



1. 業務改善が求められる理由

我が国の人口減少問題に照らして、深刻な人材不足や生産年齢人口の減少は、さらに加速する見通しであり、業務の効率化や改善は喫緊の課題である。

また、働き方改革による労働生産性の向上が求められるなか、賃金は右肩上がりの一方で、労働生産性は伸び悩んでおり、「業務管理・時間管理・利益管理」が生産性向上のキーワードとなっている。

2. 業務の棚卸し

業務の棚卸しは、現状分析の全体像を知るための有効な手段であり、具体的には「静態的アプローチ」と「動態的アプローチ」に分けられる。静態的アプローチとは、「ムダを洗い出し、付加価値の高い主体業務に時間資源を集中させること」であり、動態的アプローチとは、「主体業務そのものの生産性を高めること」である。特に、静態的アプロ

ーチは、「なくす・スキルアップする・効率化する・増やす」の方向性を決めるモノサシとして有効的な手法である。

3. 業務改善スキームの組み立て方

- (1) バックキャストイング（未来のあるべき姿）により、「目的」を押さえること。
- (2) 業務の全体像を描き、チャレンジ目標を設定する。
- (3) PDCAサイクルを活用し、業務改善を展開する。
- (4) 業務設計とムダ・ムラ・ムリを解消するための仕組み・仕掛けを導入する。
- (5) KPI（重要業績評価指標）に加えて、成果目標（KGI）やプロセス指標を設定する。

4. 現場を変える「5S」力

5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を掲げて現場を変える。5Sとは、モノの見える化であり、モノに関する一連のルール体系である。

5. タイムマネジメントを考える

仕事の内容を厳選し、ムダな仕事を省き、重要な仕事に時間を使うことで仕事の質を高めることである。具体的には、「ゴール（目的・目標）」「全体像（進め方・ストーリー）」「役割分担（誰が何を）」を示すことである。

6. まとめ

人材不足が深刻化するなか、労働時間の短縮や有効求人倍率も年々増加し、企業における雇用環境は厳しさを増している。このような状況下において、「ステル・アラタメル・アタラシクスル」を通じて、“業務の棚卸し”を行い、目的や目標に向けて業務改善を実施することが、生産性を高めるための有効な手段である。



情報交換会

勉強会終了後、田中講師を交えて、情報交換会を実施いたしました。経営上の課題について、意見交換や情報共有を行いながら、異業種間のマッチングを図る良い機会となりました。

次回は、令和元年度ビジネススクールの“最終回（第5回）”です。

令和2年2月14日（金）15時から、(株)タナベ経営様講師による「新たな時代の新しい育成へ」というテーマで最終回の講義を予定しております。

勉強会終了後には、「閉校式・交流会」を予定しています。